

Hello, Kids!

特集:小学校英語と中学校英語との連携

巻頭言 新しい小学校英語の動き

新里眞男(東京国際大学教授).....2

英語活動の中でも輝く子どもたち

高橋セツ子(岩手県紫波郡紫波町立日詰小学校校長).....3

実践報告 いつでも・どこでも・だれもができる「英会話」

村田幸子(愛知県豊橋市立老津小学校教諭).....4

中学校へどうつなぐ・つながる 小・中連携への展望

鈴木一恵(栃木県下野市立古山小学校教諭).....6

学級担任のための英語救急箱

.....8

Say "Hello" with Alison! 根本アリソン(福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師).....8



東京都文京区立
誠之小学校
平野浩太郎
先生



ALTや地域の
協力者の方々と
連携し、子どもたちが
楽しみながら活動
できるように心がけ
ています。



子どもが
親しみやすい
教材作りを
目指しています。

新しい小学校英語の動き

東京国際大学教授 新里 眞男



今年の8月30日、中央教育審議会が英語(外国語)活動を小学校高学年に週1コマ(45分)程度設けることを認めたとの報道がありました。「総合的な学習の時間」が1コマ減ると連動しているようです。やはり英語活動は「総合的な学習の時間」とは相容れなかったのでしょうか。

さて、小学校英語は今、大きな変化を遂げていきます。かつては、色や動物、食べ物の英語名をくり返したり、カラーバスケットなどのゲームをしたりするだけでした。それが、当時のキャッチフレーズの「英語に触れる」ということだったのです。

しかし、最近は大変大きく変化してきました。多くの先生方が言葉は何のために、どのような時に、どのように使うのかを考え始めました。言葉は、母語であっても、外国語であっても、「自分の持っている情報や気持ち、考えを相手と伝え合うために使う」ということが意識され始めたのです。

簡単な単語でもいい、完全な文になっていなくてもいい、時にはジェスチャーだけでもいい、自分の言いたいことを母語以外の言葉で何とか伝え合おうとすること、それが今の小学校英語活動の主流になってきています。この動きを歓迎したいと思います。

小学校英語の目標は、コミュニケーションを図ろうとする積極的態度の育成であると言われていきます。けれども、コミュニケーションがある程度できなくては、積極的にもなれません。目標は「態度」の育成であっても、その達成には、なるべく本物に近いコミュニケーション活動が必要です。子どもたちに、簡単な表現でもいいので、何か自分の気持ちや自分なりの情報を伝える活動を提供したいものです。絵カードを見て“What color is this?” “It’s green.”というやりとりをするだけでなく、いくつかのカードから“What color do you like?”とたずねて、好き嫌いを言わせたり、“What color do you want?” “Blue one, please.”などのやりとりをするといった工夫が欲しいところです。

子どもたちに機械的な反復練習だけを強いていませんか。低学年の子どもなら、反復練習を嫌がらないと言われていきます。けれども、言葉を使うことで意思の疎通が図れるという実感が持てなくては、子どもたちもいずれ飽きます。母語でも、親は必ず子どもたちの「言いたい内容」に反応しています。子どもは自分の基本的な要求を満たすために言葉を使うのです。

これらのことを忘れずに、日々の実践を続けましょう。そうすれば、単にノリノリの活動にとどまることなく、一步、本当のコミュニケーション活動に近づいた英語活動が実践できると思います。



1. はじめに

本校では、平成18年度から2年間に渡って文部科学省より「小学校における英語活動の在り方に関する調査研究・国際理解活動に関わる推進事業」の委託を受け、英語活動の在り方を模索しながら研究を進めているところである。「総合的な学習の時間」の位置づけで週1時間の設定である。

2. 英語活動を楽しむ子どもたち

事業の一環として、5・6年生には今年度から本校独自のALTが配属されている。週1回の英語活動には常にALTの支援があるという恵まれた状況にある。ALTは終始英語で子どもたちに語りかけ、活動を促してくれるので子どもたちは目一杯に英語のシャワーを浴びることができている。子どもたちは、英語が十分に理解できなくてもさして気にもかけずに、明るい表情で活動を楽しんでいる。ALTの話す英語を真似して言ってみようと意欲的である。新しい出会いをすんなり受け止めて、すぐにコミュニケーションをとることができる子どもたちの適応力は見事である。言葉がよくわからなくても人は通じ合うことができるという体験は、やがて積極的にさまざまな人と関わっていく意欲につながっていくのではと感じている。



3. 継続的な英語活動の推進を支える条件整備

- ①英語活動のためにステップ化された音声視覚教材が準備されていること。活動内容を事前に把握することができ、共通理解も容易なので、担任の負担が少なくて済む。
- ②英語活動担当者の校務分掌での位置づけと役割が明確

であること。担当がALTとの打ち合わせの中心となることで、どのクラスも同時進行で推進していくことができ、互いの連携も密で時宜を得たものになる。

- ③あくまでも学級担任が英語活動を推進していく気概を持ち、そのための体制を整えること。英語を聞くことを楽しむということでは、ネイティブのリズムあふれる英語のシャワーは子どもたちにとって新鮮である。また、担任も一緒になって楽しむ姿を見せることは、児童の積極的なコミュニケーション能力の育成に有効である。
- ④英語活動を行っている3年生以上の全クラス(8クラス)において、3年は「ステップ1」、4年は「ステップ2」、5・6年は「ステップ3」と教材の配列が決定しており、螺旋状にくり返しが行われることで、児童が安心して少しずつ新しい内容を覚えていく仕組みがあること。また、英語活動の担当者は全てのステップに精通しているので、全体の把握ができ、悩みを共有したり具体的な指導を行ったりできる。
- ⑤本校に配属されているALTが明るくて陽気な方なので、児童の気持ちをうまく高めてくれることは大きな要素となっている。担任との連携もとりやすい。

4. おわりに

英語活動は、人を好きになる子どもたちを育て、共に活動することを楽しむ学級経営があって初めて成立すると言えるだろう。もし、子どもたちが英語活動の中で困難を感じたとしても、それを乗り越えていけるように後押しできる担任であり、学校でありたいと願っている。「まちがえてもいいよ。伝えようとする心が大事なんだよ。」と語りかけ、コミュニケーションがとれたときに共に喜んであげることがいちばん大切なことだと実感している。

目まぐるしいスピードで教育改革が進んでいるが、その主体にあるのはいつも子どもたちの意欲に輝く笑顔であるはず…。

いつでも・どこでも・だれもができる「英会話」

1. はじめに

平成17年11月に豊橋市は英語教育推進特区に認定されました。「英会話のできる豊橋っ子育成プラン」を立ち上げ、中学校は平成18年度より全学年で、小学校は本年度より3～6年生で年間35時間の「英会話」の授業がスタートしました。

老津小学校では、平成16年の夏に、英語活動のカリキュラムを作成しました。先進校を見学したり、現職研修の総合的な学習の部で話し合ったりしながら、「老津流」の英語活動をスタートさせました。その中で1～6年生用に10ステップのカリキュラムを作成し、修正を加えながら、今年度を迎えています。

2. 1時間の授業をパターン化

本校では1・2年生の授業時間数を1時間増やし、全学年で英会話の授業を週1時間行っています。3年目を迎えるにあたり、各学年間における活動内容の難易度を調整し、ゲームで使用するグッズを充実させました。

(1) 45分の活動は5つ

授業の流れを「あいさつ・歌 → 単語・構文 → ゲーム → 反省・感想 → あいさつ」にパターン化しました。月ごとの活動は、イメージ化できるように改良してきました。

(2) 始め：Greeting & Song

①活動の始めは自作の歌でwarming up!

(例) ♪ My Body / ♪ Animal 1 / ♪ Animal 2

簡単な体の部位名、動物名、動詞、助動詞のcan、よく使うであろう名詞、形容詞を盛り込み、フォニックスも取り入れて、児童と教師が歌って踊ります。今では子どもたちがクラスの前に出て踊っています。

感想カードより(5年)

◆マイボディでは、ゆかりさんが元気よく先生と踊っていました。あゆみさんがゲームにはりきって大きな声が出ていました。さゆみさんも鬼になったときがんばって英語を言っていました。伝言ゲームで最初は3位だったけど、みんながんばったので1位になりました。

◆すごろくゲームで、1位じゃなかったのでくやしかったです。となりでことみさんが大きな声で話していたのですごいと思いました。カードゲームで枚数が少なかったので今度がんばります。起きる時間と寝る時間が言えるようになりました。

②前時の復習Q&A

(例) 5年生(TからPへ)

T: What animal do you like? P: I like penguins.

T: What color do you like? P: I like white.

T: What fruit do you like? P: I like melons.

*T: Teacher / P: Pupil

教師の質問に5年生の子どもたちは既習事項をもとに答えます。子どもたちが覚えている単語・構文の数はKey Wordsをおさえながら行う各単元での学習を通して、前年度より確実に増えてきています。「この学年なら、ここまでは大丈夫」という観点で扱う単語・構文を見直しました。子どもたちはゲームを通して重要な単語・構文を何度も口にしながら、覚えていきます。

(3) Activity: Key Sentences & Two Games

英語の発音はALTにたずねたり、現職研修の中で互いに確認しあったりしています。先生方も自信をもって教室に向かうことができるようになってきました。1単元を3時間に設定し、中心となる構文を2つのゲームを通して定着を図っています。本年度の5月には英会話ルームも整備しました。



愛知県豊橋市立老津小学校教頭 村田 幸子

(4) 反省・感想

授業の最後の5分間は「今日の感想と自己評価」。子どもたちは今日のがんばり度をチェックし、授業を振り返ります。

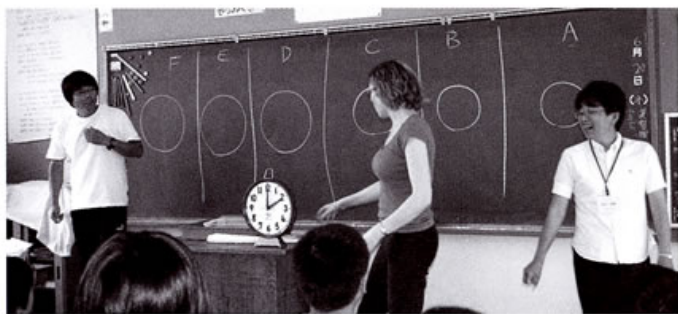
感想カードより(6年)

- ◆英語の時間は楽しいです。シアン先生や中学の先生がわかりやすく教えてくれて、歌も元氣よく歌えました。
- ◆4年のときにやった英語を復習しているみたいです。シアン先生の英語の説明をだんだんわかってきたんだなあと思うときがあります。

3. 中学校との連携

本年度、本校は愛知県教育委員会より、隣接の中学校と連携して、「中1ギャップ」の解消を図る教科担任推進校の指定を受けています。6年生の授業に中学校の先生(英語、理科)がアドバイザーとして入り、担任、ALTと3名で、年間20時間ほど実践しています。6年生の担任にとっては中学英語への橋渡しとして、また中学校の先生にとっては新1年生の素顔に触れ、小学校での英語活動の内容を把握したうえで新学期を迎えられるというメリットがあります。

授業のパターンはもちろん老津小のカリキュラムに沿って進行しています。現在、テキストはありませんが、今年度豊橋市で検討することになっています。



4. おわりに

本校の英語活動も3年目に入り、いちばん変わってきたのは先生方の意識でした。活動を始めた当初とは比べものにならないほど、英会話の授業に積極的に取り組み、Classroom Englishを覚え、英語を使った授業がどんどん展開されるようになってきたのです。子どもたちは、そうした担任の姿を見て、英会話の授業により熱中するのです。私自身、ここ老津小学校で熱意ある先生方に恵まれたことに感謝しています。

●先生方の声

- ・子どもたち(1年生)は、英会話にとっても興味があり、毎回楽しそうに歌ったり踊ったりしています。授業以外でも「これは英語で何て言うの?」と使ってみようとする気持ちが出てきています。私自身、英語への苦手意識が強かったのですが、現職研修を通して英語活動の楽しさがわかってきました。テンションをあげてがんばっています。
- ・英語は楽しいものだと思うようになった。カリキュラムに慣れてきたので自信がついた。
- ・私自身、楽しんでやればいいことがわかってきたので前向きにチャレンジしていこうと思っている。
- ・「日本人は発音がヘタで当たり前」と言われたのでとても気持ちが楽になって、子どもと一緒にもっとやろうと思うようになった。授業で使うClassroom Englishも覚えたのでちょっと余裕かな。また、視覚に訴える教材研究を心がけるようになった。

中学校へどうつなぐ・つながる 小・中連携への展望

1. 本校が目指す英語活動

本校は、平成17・18年度の下野市指定モデル校を経て、平成19年度より文部科学省指定実験校として、英語活動の研究を進めている。研究主題および副主題とそのとらえ方は次の通りである。

Let's Try! ウキウキ古山 楽しい英語活動
～表現・コミュニケーション能力の育成を目指して～

(1) 本校が目指す「英語活動」

Let's Try! ……児童がおもしろそうだ、自分にもできそうだなと感じて挑戦し、
ウキウキ古山……遊びのように夢中になって、いつの間にか英語の世界に浸ることのできる、
楽しい英語活動…楽しさいっぱい、もっとやってみたいなと思う英語活動

(2) 育てたい「表現・コミュニケーション能力」

本校ではコミュニケーション能力を自分の言葉で考え、感じ、想像し、表現できる「自己発信力」と相手の発信を受け入れる「受容力」とらえている。英語活動において人と関わることの楽しさや喜びを実感することにより、日本語においても自分らしく、自分の言葉で表現しながら、積極的に人と関わろうとする態度を育てたいと考えている。その具体的な姿を示すキーワードとして、「アイコンタクト」「プリティースマイル」「ラウンドボイス(よく通る声)」を掲げている。

2. 具体的な取り組み—高学年を中心に—

本校では、楽しい英語活動(児童の生活に関する簡単な英単語を用いた歌、ゲーム、会話など)を通して、英語に親しませるとともに、児童の自己表現力や、身近な人々、外国の人々と積極的に関わる力を育てたいと考えている。活動にあたっては、児童の振り返りを重視し、発達段階と

実態に応じた楽しい英語活動を追求している。また、児童の英語に対する興味・関心の把握に努めるとともに、活動への動機や国語科と関連づけた相手意識・目的意識を大切に、一人ひとりが英語に対する抵抗感を抱くことなく、主体的に人と関わることができる活動になるよう心がけている。高学年における活動の様子を紹介する。

【活動例1】 第5学年 Body Parts(顔と体)

英語でのBody Partsの言い方を学んだ後、児童から「Body Partsのゲームを作りたい」という意見があり、ゲーム大会に発展。福笑い、ビンゴゲーム、タッチゲームなど、子どもたちの手作りによるカード類を用いてゲーム大会を実施した。ゲーム進行の際には、説明やヒント、褒め言葉などに今までに学んだ英語表現を取り入れて活動することで、人と関わることの楽しさを実感していた。

また、「これ、英語でどう書くの?」とアルファベットへの関心を示す児童も出てきたので、ピクチャーカードにスペルを入れたものを提示することで対応した。



(主な言語素材)

head, shoulder, knee, toe, eye, mouth, nose, hair, chin, neck, elbow, chest, back, belly, leg, touch, jump, push, run, swim, kick, walk / Touch your ~.

(アクティビティ)

♪ Head, Shoulders, Knees and Toes
Simon Saysゲーム / 児童自作ゲーム

【活動例2】 第6学年 Greetings(あいさつ)

あいさつ活動では、自己紹介の表現も付け加えた。子ど



もたちから「好きな学習、運動、食べ物などについても伝えてみたい」という希望があったからである。その際、「自分の好きなものを英語で何と言うのか」という関心が高まってきたので、ALTや担任が質問に答えたり、一緒に和英辞典で調べたりして対応した。自分たちで調べたことや日本語も交え、I like ~.を用いて友だちに自己紹介することができた。

(主な言語素材)

morning, afternoon, evening, night, fine, so-so, hungry, tired, sick, sleepy, hungry, happy, etc.

How are you? / I'm ~. / My name is ~.

What's your name? / Nice to meet you. / I like ~.

(アクティビティ)

♪ What's your name?

Name Card Change Game

●「英語活動に関する意識調査」の結果から

本校では3年間の研究を通して、英語活動に関する意識調査を実施してきた。現在の6年生の結果(3年間分)を見ると、「英語活動が好きか」の問いに対し、「好き」と回答した児童は4年次90%台、6年次80%台となった。わずかな減少傾向はあるが、高い数値を維持している。これは、まさに担任が児童の実態を把握し、知的好奇心を揺さぶりながら、主体的な活動をうながす活動を工夫してきた成果であると言える。ちなみに好きな理由として、「歌やゲーム」「友だちや先生との関わり」が3年間を通して多くあがっていた。

「英語をもっと教えてもらいたいか」の問いには、3年間で若干の推移はあるものの、約8~9割が「はい」と回答していた。その内容として、6年次では「身近なことやよその国のこと」に加えて、「発音や会話」「書くこと、読むこと」をあげており、英語学習への関心が高まっていることが感じられる。

その反面、約1割程度は「難しい・覚えるのが大変」という理由で苦手意識を持ち始めていることも事実である。その子どもたちへの適切な支援が必要である。

3. 小・中連携に向けて

どの児童にも中学校英語に期待感を持たせて進学させたい。当然、小学校英語活動と中学校英語をどのようにつなぐかが課題となる。そこで、本校の児童が進学する中学校の英語科教員と小・中連携のあり方について、現状と今後の展望を話し合った。以下がその概略である。

(1) 現状把握から

- ・小学校で英語活動を体験した生徒は、コミュニケーション力があり、英語への垣根が低くなっている。
- ・中学校英語スタート時のつまずきは「文字」であることが多い。文字への抵抗感をなくし、英語学習の手助けとしての活用を図る必要がある。
- ・「国語ができなくて英語ができる」という生徒はあまりいない。コミュニケーション力そのものは母語でも強化できる。
- ・中学入学段階での英語へのモチベーションの違いを感じる。同一中学校の学区にある小学校間の連携が望まれる。

(2) 小・中連携の可能性と限界

- ・小学校のコミュニケーション的な英語活動に中学校教師が参加することで、小学校段階での英語への関わり方や関心の高まり方の共通理解を図ることができる。中学校側では入学時の指導の参考になるのではないかな。
- ・しかし、その他の部分でカリキュラムの連携を図るのは現段階では根本的に難しいのではないかな。
- ・小学校への中学校英語の出前授業的な内容の実施は、絶対に避けるべきではないかな。
- ・歌は小・中を滑らかにつなぐ1つの手段になるのではないかな。例えば、中学校教師から6年生に簡単な英語の歌を紹介してもらおうなどするのはどうか。
- ・小学校での「文字」の扱いについては、ピクチャーカードなどにスペルを記載することで、音声と文字のつながりに気づかせることを中心にしていくとよいのではないかな。

■参考図書

熊本大学教育学部附属小学校「小学校英語活動365日の授業細案」 明治図書
樋口忠彦、衣笠知子「小学校英語アイデアバンク」 教育出版
松川禮子「みんなで作る英語の時間100」 文溪堂



学級担任のための 英語救急箱

Classroom Englishをどのように使えばよいのかわかりません。

教室の雰囲気を変え、英語の授業らしくするために、Classroom Englishは有効です。

ちょっとした指示や褒め言葉などを英語にすると、教室は普段と様子が変わります。

例えば、児童に見てもらいたいものがあるときは、“Look at this [that].” 聞いてほしいときは、“Listen.” 一緒に歌を歌いたいときは、“Let’s sing the song together.” うまくできたら、“Good.” / “Great!” もう一息のときには、“Try again.”などです。

授業の始めや終わりのあいさつ、テキストを開くときの言葉を決めておくのもよい方法でしょう。これに、褒め言葉や励ましの言葉がうまくプラスされると、授業は明るく楽しいものになります。

言葉の数は、少なくともかまいません。短くて覚えやすく、使用頻度の高いものをいくつか暗記しましょう。それらをくり返し何度も、また、いろいろな調子をつけて使いましょう。

簡単に使えそうなClassroom Englishを5つぐらい選び出し、授業の随所に取り入れてみてください。英語の雰囲気にあふれた楽しい授業になることまちがいなしです。



Say “Hello” with Alison!

根本 アリソン

イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍中

■別れるとき

今回は、お世話になったALTと別れのあいさつを交わす場面です。

日本語の「お世話になりました。」は直訳しないでください。英語ではThanks for your help today.「今日はお手伝いくださってありがとうございます。」をよく使います。金曜日だったらHave a good weekend.「よい週末をお過ごしください。」もよいですね。いつでも使えるのはHave a safe journey home.「気をつけてお帰りください。」です。次の訪問予定があるときはSee you next time.「次回お会いしましょう。」がよいでしょう。

もし、ALTがこれから母国に帰るのであればHave a safe trip home. Bon voyage! 「気をつけて帰国してください。よい旅を祈ります。」と声をかけてください。

覚えにくい表現もありますが、いくつか暗記して使ってみると自然と英語力が上達します。機会がありましたら、児童に負けずに楽しいコミュニケーション活動にぜひ挑戦してください。 (福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)

Joke Time

Son: Daddy, why do I have to eat spinach?

Daddy: To get big and strong enough to refuse it.

息子：パパ、どうしてホウレン草を食べなきゃいけないの？

父親：「ホウレン草は嫌い」ってはっきり言えるぐらい、大きくたくましくなるためだよ。

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.1-4 (通巻4号)

定価120円(本体114円)

送料80円

平成19年11月9日印刷 平成19年11月15日発行(年4回発行) 編集兼発行人 山岸 忠雄

印刷所 株式会社興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業)、(5684)6118(販売)、(5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061
東北支社 〒983-0043
名古屋支社 〒464-0802
大阪支社 〒550-0013
九州支社 〒810-0075

札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403
仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2階 ☎022(782)8511
名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741
大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782
福岡市中央区港2-1-5 F Y Cビル3階 ☎092(733)0174